

## 2025年度

### みすずキッズ保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月13日（火）～1月31日（土）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2026年2月18日（水）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	「おもいっきり学ぶ」「おもいっきり遊ぶ」の保育理念に則り、子ども主体の保育を実践するために、園内外の研修にて自己研鑽しミーティング・職員会を通じて全職員間の共通理解のもと「生きる力を育む保育」を目指す保育を行うことができた。
子どもの発達援助	日々の遊びや各行事の中での子どもの発達を全職員が共有し、個の対応について「計画⇒実行⇒評価⇒反省」を繰り返し、各クラスや全体での話し合いを毎週行うことで子どもの発達にあった工夫が生まれ、丁寧な保育ができた。
保護者に対する支援	送迎の際の情報共有・子どもの一日の様子・体調等を伝えるように対応した。また、行事等を動画配信「てのりの」や写真を活用したことで子どもの成長を共有することができた。
保育を支える組織的基盤	自己研鑽・保育の質の向上のため、外部研修や内部研修に参加した。その都度報告会をすること・定期的な職員面談・職員会議をし、スキルアップを図った。学んだ内容を保育の中で実践し、振り返り、工夫することができた。

総評
環境の中で「遊びの確保」「食育」「主体性」を中心に位置づけて活動を行ってきた。例年同様、日々の活動・遊び・各行事が細切れにならず、系統性を持った「つながる保育」「生きる力を育む保育」を意識し子ども個々の目標を考え、個人指導計画・月案・週案に反映することができた。また、子どもの育ちと保護者支援を並行して行うことで、子ども・保護者・保育園のトライアングルで、これからも地域・保護者が「保育園は安心して生活できる場所・頼れる場所」と思えるように更に自己研鑽し、信頼関係を築いていきたい。